

# 理系の就職活動体験談 01

## 【就活データ】

就活開始：2010年6月

就活終了：2011年5月

志望業界：金融

エントリー：15社

面接：7社

内定社数：4社

内定先：三井住友海上火災保険株式会社  
アクチュアリー

金融業界(アクチュアリー)内定 石黒 圭祐

東京大学大学院 情報理工学系研究科 数理情報学専攻 修士2年  
アクチュアリー試験3科目(数学・生保数理・損保数理)合格



## 多くのセミナーに参加し、企業や業態ごとの特徴・魅力を見極める

### 就職活動はどんな

### スケジュールでしたか？

夏のインターンシップから活動を始めました。大学院では統計を専攻していて、研究室の先輩から「アクチュアリーという統計を活かせる専門職がある」と聞き、興味を持つようになりました。

アクチュアリーの仕事は、生命保険・損害保険・信託銀行のどこで働くかによって異なります。仕事内容の違いを理解できるように、夏のインターンや10月以降に開かれたセミナーでは、生保・損保・信託を一通り回るようにしました。社員の方と話すうちに、年末ごろには「損保に行きたい」と志望が固まりましたね。

### 年明けからは、早い時期から

選考をしている生保アクチュアリーを受け始めました。4月からはじめには、ある損保会社から内々定をいただきましたので、その後の選考を落ち着いて受けることができました。5月には本命の損保企業から内々定をいただき、そこで就職活動を終了しました。

### 志望業界と内定先は？

損保の中から今の会社に入社を決めたのは、「就活生一人一人に対して誠実に向き合ってくれているな」と感じられたからです。セミナーやインターンでお会いした社員の方々の姿勢からそう感じられましたし、震災後の対応についても、この会社が真っ先に「選考は5月に延期す

数学を使う仕事ということで、アクチュアリー以外に金融工学を駆使するクオオンツにも興味を持っていました。けれど、アクチュアリーの方が資格として認められていますし、専攻していた統計との関係も深い。統計は保険料を決めるだけでなく、

リスク管理にも使われていて扱える業務の幅が広そうな印象がありました。そのため、就職活動はアクチュアリー一本に絞ることにしました。

アクチュアリーの中でも損保アクチュアリーを志した理由は、扱える商品が多く、業務の幅が広そうだったからです。「挑戦する人を後押しするための保険」という点も魅力でした。

る」と発表しました。会社として筋が通っているところが信頼できると感じましたね。

### 情報収集はどのようにしましたか？

最初は先輩から話を聞くようにしました。ただ、インターンや理系ナビのアクチュアリーのキャリアスクールに参加するうちに、同期の就活生と仲良くなれました。途中からは就活生同士の情報交換が役立ちましたね。

大手就職情報サイトはあまり使わず、就職情報の口コミサイトをチェックしていました。エントリーシートを書く時に、ほかの人の志望動機を参考にするため使いましたね。

### 理系ナビのサービスはいかがでしたか？

アクチュアリーをテーマにしたキャリアスクールは、すごく有益でした。アクチュアリーを志望する就活生同士で交流を深められましたので、感謝してい

ます。

あと、アクチュアリー試験の対策にも役立ちました。模試を

2回受けられまして、課題もかなり出していただきました。勉強するための教材には本当に困らなくなりましたし、適切なタイミングで模試や課題を設けていただいたので、すごく勉強しやすかったですね。おかげさまで昨年度のアクチュアリー試験では数学、生保数理、損保数理の3科目に合格することができました。

理系ナビはアクチュアリー関連のセミナーが充実しています。アクチュアリー志望の就活生にとっては、本当に理系ナビだけ見ていれば大丈夫みたいな感じでした。理系ナビにはお世話になりました。ほかの就活サービスは、ほとんど使っていないです。

### 就職活動で一番苦労したことは何ですか？

エントリーシートを書くのが大変でした。長い文章を書く

のが苦手で、端的に回答を書いてしまい、指定の文字数を埋めるのに苦労しました。

ですから、エントリーシートを書く時には、ウェブなどでほかの人がどんな内容の答えを書いているのか参考にして、あとは何とか絞り出して文字を埋めていました。

面接も最初のころは苦労しましたね。夏のインターンでは、面接で2回ほど落ちてしまいました。「面接が下手なのか」と悩んだりもしました。ですが、何度か場数を踏むうちに慣れてきて、面接のやり方が分かってきました。

できるだけ自然体で臨もうとしていましたので、最初のころは特に準備をしていなかったんです。それが面接に失敗したことで、「主要な質問に対しては、きっちり準備をしておいた方がいいな」と考え直しました。

自己PRや志望動機、研究内容の説明だとか、そのあたりは事前に回答を用意しましたね。それ以外の質問については、自然な会話の流れに乗って受け答え

していたらうまく行きました。終わってみれば杞憂でしたが、最初はやはり不安でしたよ。

### 就職活動で大切だと感じたことは？

まずはいろんな会社に行って話を聞き、自分が興味を持っている仕事を見つけることだと思います。私もアクチュアリーを

目指すと決めてからは、生保・損保・信託を問わず、アクチュアリーのセミナーは全部参加するようにしました。セミナーに行ったら、損保の企業なら損保の魅力、生保の企業なら生保の魅力を社員の方に質問するようにしました。そうするうちに「損保に行きたい」という気持ちに気づけたのです。社員の方に直接話を聞くことが大切です。

もう一つ、就職活動は情報戦のようなものですから、就活仲間を作るとか、就活の相談ができる先輩を見つけるとか、あとは理系ナビのような頼れる情報源を見つけるとか、情報を集められるルートを確保しておく

ことも大切なのではないでしょうか。

### これから就活に臨む学生へのアドバイスをお願いします。

アクチュアリーを目指すのなら、生保・損保・信託のどこに行きたいのか、まずはそれを考えるようにしてはいいかがでしょうか。

アクチュアリーで内定を得るためには、どの会社でも面接以外に数学の筆記試験を通過する必要があります。一定以上の点数を取らないと次に進めないで、筆記試験対策は十分にしておいた方がいいと思います。

筆記試験に通ったら面接に進みますが、面接では明るく元気に受け答えることが大事なのではないでしょうか。

理系ナビ 2013 (WEB) で、そのほかの就活体験談も掲載中です！



<http://www.rikeinavi.com/13>

## 理系の就職活動体験談 02

## 【就活データ】

就活開始：2010年6月

就活終了：2010年10月

志望業界：コンサル

エントリー：7社

面接：4社

内定社数：1社

内定先：株式会社コーポレートディレクション  
コンサルタント

コンサル業界内定 赤瀬 太一

東京大学大学院 工学系研究科 システム創成学専攻 修士2年

就職活動はどんなに苦しくても  
悩み抜いたほうがいい就職活動はどんな  
スケジュールでしたか？

学部生のときは就職活動をしておらず、修士1年の6月にインターンシップの説明会などに参加したのが最初です。とはいえ、それまでに研究室の先輩や就職した友人から仕事の話を聞いて情報収集をしており、志望業界はある程度固まっていた。

インターンシップはコンサルやメーカーを中心に短期のものに10社程度参加し、その中で志望度の高かったコンサル会社の面接に参加。受験した企業から10月中に内定をいただいたので、そこで就職活動を終えました。

志望業界と内定先は？

最初のころに志望していたのは、コンサル、メーカーなどです。自分は人間の認知や知識を工学的にアプローチするという学問を専攻していたので、そういった興味の方角性に近いと感じたのがこれらの業界でした。

最終的にコンサル業界に絞ったのはインターンシップの影響が大きかったですね。インターンシップで実際のプロジェクトに準じた体験ができるグループワークやケーススタディに参加したのですが、その際に業務に面白みを感じました。長時間ケースに取り組んでも疑問が次々に沸き起こって来て、もっ

と突き詰めたい」と感じる体験をし、それで、やっていけそうだなと(笑)。コンサルは、華やかな仕事、だとイメージしている方がいるかもしれませんが、個々の仕事は調査や資料作成といった職人的仕事が多かりの比率を占めています。そういった仕事のスタイルと自分のタイプが合っていると感じましたね。

最終的に内定先の企業に決めたのは、出会った社員の多くが仕事に誇りを持って取り組んでいるという点に強く惹かれたからです。全員が自分の思考プロセス、ロジックに誇りを持っていて、それをアスリートのようなストイックさで突き詰めている。自分も何かと職人肌だったので、そういったところに共感

しました。

## 情報収集はどのようにしましたか？

就職情報サイトや説明会に参加して情報を集めたのはもちろんですが、同じ学科の友人とスケジュールを共有し合えたのが助かりましたね。「あの会社がエントリー受付を開始した」とか「明日締め切りだぞ」とか。

自分だけだと研究が忙しくて見落としてしまいそうだったので非常にありがたかったです。また、友人たちと就職活動の相談をし合って、一緒に頑張れたことも心強かったです。

企業・業界研究では、インターンシップで知り合った社会人の方に客観的な視点から志望企業について聞いてみるなど、多角的な情報収集を心掛けました。

## 理系ナビのサービスはいかがでしたか？

興味を持った職種の研究セミ

ナーに参加しましたが、すごく参考になりました。講義を通じて業界理解や仕事のミッションへの理解を深められたのと同時に、座談会では少人数で現役社員の方に気軽にいろんなことを聞くことができました。仕事内容などを納得できるまで具体的に聞くことができ、納得感は高かったですね。

## 就職活動で一番苦労したことは何ですか？

プレゼンテーションですね。理系学生は自分の研究や客観的事実の解説は得意な一方、「意図をどのように伝えるか」といった見せ方が苦手だと思っています。自分が同じことを話したとしても、聞く人が違えば受け取り方が異なります。それをいかにして自分の意図するプレゼンにできるか、常に意識して洗練させていくのは大変でしたね。

具体的な対策としては、エントリーシートを友人に見てもらってきちんと意図が伝わるか

について忌憚のない意見を貰っていました。最初のころは友人によく「意味が分からない」と言われましたが(笑)。自分の伝えようとしていることがしっかりと伝わっているかどうか、その感覚をつかむことが大切だと感じましたね。

## 就職活動で大切だと感じたことは？

まず、「自分の言葉を大切にすることです。就職活動の初期に、誰かが言っていたような言葉でなんとなく志望動機を作って後悔したんですよ。そんな志望動機で選考を通るのは難しいし、万が一その会社に入社できたとしても後で苦しむのは自分です。就職活動を通じて出会う社会人には魅力的な人が多く、憧れを抱くことがあります。他人に影響されすぎて、染まってしまってもいけない。自分なりに理解する努力をしないと、自身の発する言葉と本音が全然違う方向に行ってしまうかねないですから。

もうひとつは、「オープンな気持ちで話を聞く」こと。自分のやってきたことにとらわれず、決め付けない方がよいと思います。理系は自分の研究にプライドを持って取り組んでいると思いますが、就職のタイミングで一旦リセット、くらいに考えてもいいと思います。自分が本当にやりたいことや向いていることは何なのか、しっかりと自分と向き合ってみようという機会ととらえ、前向きに活かすのが良いのではないのでしょうか。「この業界は合わないな」など、知ろうともせずに決め付けていると自分の可能性を狭めてしまいます。

## これから就活に臨む学生へのアドバイスをお願いします。

文系と比べると理系は研究などで忙しいと思います。しかし、就職は自分の人生を決める重要な節目で、最後に責任を持たないといけないのは自分。精神的につらくなる時期もあり、「これでいいや」と妥協したくなる

きもあるかもしれませんが、苦しくても悩みぬいてください。長期的な視点に立てばその方が絶対に自分のためになります。僕が悩んだのは自分の個性を突き詰めたこと。自分の志向性や求めているものを書き出して、不要なものを切り落としていったのですが、これは自分の可能性を剪定していく辛い作業ですが、これをやったらこそ自分の進むべき道が明確になりました。大変かもしれないけれど、皆さんも頑張ってください！

理系ナビ 2013 (WEB) で、そのほかの就活体験談も掲載中です！



<http://www.rikeinavi.com/13>